

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム愛宕の丘

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200160		
法人名	有限会社 川崎タクシー		
事業所名	グループホーム愛宕の丘		
所在地	〒027-0093 岩手県宮古市中里団地4-11		
自己評価作成日	令和3年11月19日	評価結果市町村受理日	令和4年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>職員のゆったりとした行動や認知症の方に対応した声がけ又施設環境の整備に力を入れています。利用者様の気持ちが落ち着くように努めております。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>国道45号線沿いの高台に位置する見晴らしの良い住宅団地の一角に位置し、震災発生3か月前に開所し、11年目を迎えている。平均介護度2.5で、車いす利用者が4名いるが、元気な方が多く、職員は、利用者それぞれが役割を持って、お互いが支え合い、協力し合いながらホームの暮らしをゆったりと続けられるよう支援、援助している。浴室に機械浴を用意しており、重度化への対応が可能になっている。また、訪問診療や訪問看護による医療連携体制が整っており、これまで7名の看取りを実施してきた2階に多目的ホールや会議室があり、コロナ禍前は、子供会や老人クラブなど地域との交流が活発に行われていた。アフターコロナでの地域や近隣との交流の復活が待たれる。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年1月28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を共有し、利用者様一人一人へ対応を行っている。	法人の理念である「ひとりの心を見つめるケア」の実現を目指し、利用者個々の在宅時の習慣、趣味、嗜好等を理解し、楽しみや役割をケアプランに位置付けて、生きがいのある暮らしになるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年はボランティアのコロナ対策を講じ、ボランティアの受け入れを中止し、地域とのイベント等参加していない。	コロナ禍以前は、2階の多目的ホールを開放し、子ども会や老人クラブとの交流等を行ってきたが、現在は全面休止となっている。近くに移動販売車が来た折に近所の方々と顔を合わせる程度になっており、元通りの交流が復活することが待たれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解を深めるために、資格等の取得に力を入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面による会議となっており、運営状況の資料を送付している。	自治会長、民生児童委員、他のグループホーム、家族代表等のメンバーで地域の一人暮らしの高齢者について情報交換も行っていたが、コロナ禍の現在は、書面により利用者の暮らしぶりや行事の様子を報告している。	会議の開催が出来ない間の「書面会議」では、報告のみに終わらず、ホームの取り組み課題等についても、意見や提案を提出してもらうよう資料を工夫することが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことがあれば、介護保険グループホーム担当に連絡を入れて、確認や指導を受けている。	最近では電話によることが多いが、地域の居宅高齢者や要支援者の情報交換の他、生保受給の利用者や介護保険の区分変更等の制度上の手続きで担当者と連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の「身体拘束防止委員会」が開催されており、職員に資料等の情報を周知している。	法人全体で「身体拘束廃止委員会」を設置し、管理者会議に合わせて開催しており、各施設の状況を話し合うとともに、年2回、スピーチロック等の研修を行っている。事業所では、「身体拘束等適正化指針」により、身体拘束や行動制限のない介護支援に留意しており、特にスピーチロックについては、事例が出た場合は、その場で注意し、全体で確認している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	今回権利擁護の研修に参加はしていないが、普段行う声かけから意識を持ち、業務を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格取得の際の勉強や、認知症の方の利用できる制度の理解は、一部であるが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、わからないことはもちろんのこと、ご家族様からの疑問には随時対応を行っている。介護保険改定の際には、改定内容など理解周知に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で対応を行っていたが、現在はほとんど出来ていない。	コロナ禍の中で、家族の面会を制限しており、昨年10月には、10分程度の面会を実施したが、現在は、電話で話すことが多い。毎月、利用者の生活の様子を写真を添えてお便りで報告しており、家族の安心に繋がっている。会いたいという利用者、家族の要望には、感染予防対策を講じながら安全に面会できる場面を設定して、可能な限り対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや職員会議であがった意見を、可能な限り反映させている。	毎日の申し送りの中で、職員から出された意見や要望は職員会議で協議、検討し、運営に反映するようにしている。職員からは、備品の要望が多く、速やかに対応するようにしている。資格の取得等、職員の資質向上に向けた支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心等に関しては、自ら福祉全般の国家資格の取得を叶え、可能性や考え方を伝えている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する問題を、職員一人一人に解いてもらい、採点してもらったり、どの程度認知症に対しての理解をしているかの把握を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での、事業所間のやりとりを出来る場(地域包括支援センター主催の集まり)に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の表現できるものは、身体能力から想定できる生活への支障に関して意識している。体調不良等の場合のスムーズな受診は、出来る限り行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みをされる際に、困っていることや主訴となるものや表現されていないものにも意識している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの対応が行えるものなのか、最初の段階で見極めを行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ人間という立場で対応を行うことを意識して業務を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	仕事を頂いていると意識は常に意識している。		

事業所名 : グループホーム愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が営んでいる美容室に、利用者様を連れて行く等の対応を行った。	コロナ禍で、知人や友人の来訪がなくなっている。希望によって、馴染みになっている美容室を利用している。定期通院で外出した際に、実家や思い出の場所等に足を延ばす機会をつくっている。昨年秋には、コロナの状況を見ながら、少人数で道の駅で食事をした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のトラブルの想定や、気の合う利用者様同士の席の配置など、意識して行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外で会ったりした時などは、声をかけたりすることは行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の言葉を発することが少ない方には、昔のような方だったのか家族からの情報をもとに、ご本人様であればどのように考えるのか、思っているのか、イメージする。	殆どの利用者が意思表示ができるが、自分からは話さない人もいる。本人の思いや希望に寄り添い、プランターで花を育てたり、歌を唄うレク活動等、本人の好きなこと、やれることを提供する環境設定に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査票やご家族様からの情報収集を行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様が体調が悪そうなお時には、速やかに声がけを行いバイタル測定し、必要な場合は通院対応を行う。 骨折などで安静を余儀なくされた方に関しても、痛みの有無などの確認を行い、できる限り早くの離床を行う。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員から上がった意見は、出来る限り取り入れている。	利用者の状況は毎日の申し送りで共有している。3か月毎に管理者、ケアマネ、担当職員による担当者会議でモニタリングをもとに評価を行い、ケアプランの見直し、継続の判断を行っている。プランの変更がある場合は、家族に説明し同意を得ている。在宅で服薬が出来なかった方が、服薬管理がうまく行くようになり、役割を持って生活してもらうよう新たな目標を設定するなど、利用者の状況に合わせてケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや変化を情報の分析にし、計画にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様のニーズに、出来る限り対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今回は出来ていないが、地域のイベントには可能な限り参加しようと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様からの情報や、ご本人様の昔からの行きつけの病院は、引き続き通院できるようにしている。	全員が利用開始前からのかかりつけ医に定期通院している。コロナ禍前は、病院で家族と落ち合うこともあったが、現在は職員のみ同行になっている。歯科は訪問治療をお願いしている。訪問看護ステーションから週2回看護師に来てもらい、指導、助言を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に来られている訪問看護に、状態を伝えてアドバイスをいただいている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には、地域連携相談室等の連絡を密にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からあまり話を出来ていない。コロナ対策を講じているため、前よりもご家族様と会う機会が少なくなった。	利用開始時に、「重度化、看取りに関する指針」により本人、家族の希望で看取り対応ができることを説明している。かかりつけ医や訪問看護ステーションとの連携体制が出来ており、これまで7名の看取りを行った。現在は、看取りの対象となる利用者はいないが、職員の看取りケアのスキル向上、看取り後の精神的サポート等の研修や話し合いに力を入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ある程度の対応は、日頃から情報の周知をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内部での避難訓練は行っているが、地域の一部としての訓練は行っていない。しっかりとやる必要は感じている。	春、秋の年2回火災避難訓練を実施しており、春は消防署に立会いをお願いし、利用者、職員ともいい動きをしていると評価された。職員が比較的近くに住んでおり、迅速な召集が可能となっている。運営推進会議のメンバーにより外部との連絡網を形成しているが、近隣との連携が課題となっている。水を始め、備蓄や防災用備品も用意している。	ホームは隣近所と隣接する住宅街にあり、災害等万一の事態が発生した際は、近隣との協力が必要不可欠になることから、日常的に連携を深め、災害訓練等への協力体制を築くことが求められます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや排せつ時のプライバシーを意識している。排せつ時は見えないようにし、意識して業務を行う。	利用者の自主性を尊重している中で、事業所の様々な家事に参加してくれる人が多い。排泄時には、それぞれの介助の必要により、声がけや見守りを行っているが、プライバシーを守ることを最優先しながら支援している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の気持ちを聞いたりできるように、声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日にどう過ごしたいのか、あまり希望を聞く機会はない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なかにはご自身で選べる方もいるが、職員が選んで着させていることが多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好物や嫌いなものの把握を行っている。 片付けを利用者様と行っている。	昨年から、夕食の副食については、外注に切り替え、温めるだけにし、ご飯とみそ汁を事業所で用意している。外注は1ヶ月単位のメニューで、栄養価等のバランスが考慮され、高血圧が改善された例もある。利用者は、配膳、後片付け等を職員と一緒にっており、作業を通じて利用者同士のコミュニケーションも取れる時間になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる、飲む量の記録と把握を行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。 出来る利用者様には、ご自身で行っていただけるように声かけでの促しを行い、利用者様ごとに行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄のサインを把握して、トイレの誘導を行っている。	布パンツ4人の他は、リハビリパンツにパット使用である。尿量の多い利用者には、チェック表によりこまめにトイレ誘導を行っている。一部介助の方もいるが、見守り中心の支援になっている。夜間も、自分でトイレに立つ人が多い。布パンツへの改善に向けて支援に努めている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の水分やお食事の摂取量の把握、また下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通院の状況や利用者様の便の出具合によって、タイミングをはかっている。	週2回午前中の中の入浴を基本としている。通院の前の日の入浴を勧めている。異性介助を拒否する人はいない。機械浴一部介助の必要な人もおり、機械浴を利用している。職員と1対1で、音楽を流したり家族のことや昔語りをしながら、ゆっくりと入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時には、飲み物の提供やテレビをホールで一緒に見る等の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の後納の把握と、症状の変化に意識をして業務を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の要望(食べたいもの等)に応えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地元の方が営んでいる美容院に、利用者様を連れていく等の対応を行った。	コロナ禍以前は、近くの公園までの散歩が日課になっていたが、最近は、洗濯物を干しにベランダに出たり、移動販売車での買い物程度になっている。定期受診の帰路、実家や馴染みの場所等をドライブするなど、気分転換も含め、出来るだけ外の空気を吸ってもらうよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の保管管理に関しては、施設の職員で行っている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム愛宕の丘

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたたりする利用者様には制限はかけているが、必要な連絡を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごしていただけるように、温度や清潔感が出るように、環境の整備を行っている。	高い天井と太い梁が印象的で、ホールを囲むように居室が配置され、2階は多目的ホールや会議室があり、回廊式の通路からホールにくつろぐ利用者が見渡せる。8畳の畳小上りは、作品作りの場として活用している。ウッドデッキは季節によって日向ぼっこやお茶飲みの場になっている。暖房は、パネルヒーター、エアコン、加湿器が設置され、温湿調整しながら快適に過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の組み合わせを意識しながら、席の配置に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で生活をされていた時の、安心できるものを持ち込んでいただきながら生活をしていただいている。	居室にはベッドの他、タンスが備え付けになっているが、衣装ケースで衣類を整理している人もいる。物が多いと混乱する人もいることから、使い慣れたものを中心に持ち込み品は総じて少なめで、シンプルで清潔感のある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	展示物は写真のみにし、混乱をしないようにしている。		